

平成28年度第2回那珂市総合計画策定委員会 会議録

1 日時 平成28年8月26日(金) 午後1時27分から午後3時24分まで

2 場所 那珂市中央公民館2階 講座室

3 出席者

(1) 委員

山田義文委員、船橋利秋委員、平野道代副委員長、宮田経詔委員、根本衛委員、里口邦夫委員、海野藤男委員、金子巖委員、篠原恵子委員、榊原直美委員、後藤京子委員、桐原浩彰委員、川又友美委員、富澤亜希子委員、根本傳次郎委員、勝井明憲副委員長、小島広美委員、田中廣雄委員、深畑早苗委員、大森常市委員、宮本俊美委員長、大森信之委員、篠原英二委員、川田俊昭委員、桧山達男委員、菊池正明委員、加藤裕一委員、引田克治委員、植田孝二委員、高橋秀貴委員、山田甲一委員、飛田裕二委員

(2) 事務局

企画部：部長 関根芳則

政策企画課：課長補佐(総括) 浅野和好、課長補佐(政策企画グループ長) 篠原広明、係長 照沼克美、主事 古茂田勇太郎

(3) コンサルタント会社

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：

まちづくりプランナー 堀下恭平、まちづくりプランナー 塚田和司、
トータルアドバイザー 山下淳也

4 欠席者 峯島勝則委員、綿引和雄委員

5 会議内容

(1) 開会

○事務局(浅野課長補佐) 本日はお忙しい中、また、お暑い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻にはまだなっておりませんが、お揃いになりましたので、ただ今より、平成28年度第2回那珂市総合計画策定委員会を開催いたします。

開会に当たりまして、宮本委員長よりごあいさつを頂きたいと思います。よろしくお願いたします。

(2) 委員長あいさつ

○宮本俊美委員長 皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、この委員会の会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この策定委員会でございますが、前回につきましては、総合計画の概要、これと第2次総合計画の策定方針などにつきまして、事務局の方から説明をさせていただきました。

今回からはですね、いよいよ具体的な策定作業に入ってまいります。前回の会議でもご説明したところがございますけども、まず今年度は、目指すべき市の将来像やまちづくりの基本理念、施策の大綱などを示しております「基本構想」、これを策定することになっております。今日の会議では、この基本構想の骨子案を皆様にご協議をいただくことになっております。皆様方には、活発なご意見をいただきまして、この策定委員会が有意義な会議になりますことを願ひまして、簡単ではありますが、あいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 報告

ア 平成27年度市民アンケート結果の概要について

○事務局（浅野課長補佐） ありがとうございます。

それでは、ここからの進行を、委員会設置規則第5条第1項の規定に基づきまして、宮本委員長よりお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

○議長（宮本俊美委員長） それでは早速、次第によりまして会議を進めたいと思います。よろしくお願ひを申し上げます。

次第の3でございます。報告でございます。（1）平成27年度市民アンケート結果の概要につきまして、事務局より説明をお願いしたいと思います。

○事務局（篠原課長補佐） はい、それではご説明したいと思います。説明に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思ひます。

本日の資料につきましては、事前に郵送等でお送りしているところがございますけども、まず一つがですね、平成28年度第2回那珂市総合計画策定委員会の次第。それと資料1としまして、平成27年度市民アンケート結果の概要。次に資料の2、市民ワークショップの開催結果について。次に資料の3、第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）でございます。

またですね、本日、お手元の方にまちづくりカフェの開催結果について（速報版）というものを追加資料ということで、配布させていただいております。

不足等はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは座って説明をさせていただきます。

始めにですね、資料の1、平成27年度市民アンケート結果の概要についてをご説明いたします。

市では市民の皆様の現状やご意向というものを把握しまして、総合計画を始めとする各種計画の進行管理に役立てるために、毎年2月ぐらいに、1月から2月にかけて、市民アンケートというものを実施しています。

今年は、1月15日から2月12日に実施をいたしまして、20歳以上の市民2,000人にアンケートを送付いたしまして、844通の回答がございました。

特に今年は、総合計画の策定年ということもありましたので、アンケートの設問に、新たに「那珂市の現状と将来像について」というものを加えましたので、その結果についてご説明したいと思います。

まず一つ目でございますけども、「那珂市は住みやすいまちだと思いますか」という設

問でございます。この設問に対しまして、「住みやすいと思う」「どちらかと言えば住みやすいと思う」を合わせますと、約84%の方が住みやすいと回答しておりまして、東洋経済新報社の住みよさランキングで、関東第5位、茨城県第3位という那珂市の調査結果が出ておりますけれども、そのまま市民の方も感じているというようなことですね、那珂市の大変な強みであると評価できると思います。

続いて2ページをご覧ください。上段のグラフでございますけれども、ただ今の設問を年代別にしたグラフでございます。

先ほどの円グラフでは、84%の方が「住みやすいと思う」「どちらかと言えば住みやすいと思う」としておりましたけれども、年代別に見ましてもすべての年代で80%を超えている結果となっております。加えて60代前半の住みやすいと思うという結果は38.24%となっております、特筆すべき結果であると思います。

逆に、「住みにくいと思う」「どちらかと言えば住みにくい」が多い世代といたしましては、50代が14.57%と高くなっているものの、働き盛り、子育て世代の中心と言えます、40代では8.4%と低い結果となっております、全体的な結果としましては、総じて那珂市の住みやすさとしては、満足しているものなのではないかと評価できると思います。

下段の二つ目でございます。「市の現状をどのように感じていますか」という設問でございます。グラフの中でですね、左側の青色と赤色が「十分」であると感じているもの。右側の水色と紫色の部分が「不十分」と感じている人の割合を表しています。

「十分」であるとの回答が高かったのは、52.01%の「買い物などの日常生活の利便性」、50.12%の「自然と調和がとれた住環境」が半数以上と、ほかから見ると抜き出て高くなってございます。ここでも那珂市の利便性や住環境が高く評価されており、住みよさに繋がっているものと考えられます。

逆に「不十分」であるものとしては、45.5%の「交通の利便性」、それと40.76%の「生活基盤（道路の整備）」となっております、マイカーに頼らざるを得ない地域の特性と、その道路整備の状況が不十分であるとの結果になってございます。

次のページにまいりまして、三つ目、「今後のまちづくりにおいて、どのように取り組むべきだとお考えですか」という設問でございます。

グラフ中でですね、左側の青色と赤色が「優先すべき」、右側の水色と紫色が「優先でない」と感じている人の割合を表しております。選択肢は先ほどの市の現状と同一のものとなっております。

「優先すべき」の割合が最も高いものは、68.37%の「防災・防犯・交通安全の対策」となっておりまして、割合が高い要因としましては、やはり東日本大震災の経験によるもの、それと近年、日本各地で多発している地震や風水害などの大規模災害への不安による影響が大きいものと思われます。

また、2番目に高い62.32%の「医療・福祉環境のうち医療・健康環境」、3番目に子育て環境、4番目に高齢者・障がい者環境と、この三つの医療・福祉環境につきましては、横並びで高い数字となっております、市民は、健康と福祉に対して高い優先度を求めているものと整理できると思います。

次の段にまいりまして、四つ目の設問で、「那珂市が将来どのようなまちであってほし

いと思いますか」という設問でございます。

この設問は、各項目の中から三つまで選択可能となっております、グラフの方では、それぞれの選択数を回答数で割った選択率を表しています。

この選択率が高い順からいきますと、一つ目に、子育てしやすく子どもが健やかに育つまちを選択した人の割合は49.88%、二つ目に、防犯・防災体制の整ったまちを選択した人の割合は48.7%、三番目に、買い物や交通など日常生活が便利なまちを選択した人の割合は48.34%という結果となっております。

これらの数字の高い項目としましては、アンケートの三つ目のどのように取り組むべきかという設問で、子育て支援や防犯・防災体制の充実が優先すべきであるという結果がございまして、これらの結果から、市が目指すべき将来像や対応について、施策が見えてくるものとなっております。

また、日常生活の利便性という点では、二つ目の市のアンケートのところで、買い物については十分であるとされているところではございましたが、交通に焦点を当てますと、半数近くの方が不十分と感じている結果でございましたので、更に充実した施策が必要な分野であると判断できる結果となっております。

なおですね、次の4ページにつきましては、参考としましてこの結果を年代別に分けたものということになってございますけれども、説明の方につきましては、割愛させていただきたいと思っております。

以上が市民アンケート結果の概要になります。

那珂市最大の強み、基盤としましては、正に「住みよさ」にあると思っております。この住みよさを更に充実させていくためには、自然と調和のとれた住環境の整備や保全、また、安心・安全なまちづくり、子育て支援や高齢者にやさしいまちづくりを更に進めていくべきであるというアンケート結果であったと整理できると思っております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、ご質問がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

○小島広美委員 ちょっとお尋ねしたいのですが、アンケート実施方法で系統抽出法によりやると。我々素人に分かるように、これの説明をしていただければありがたいということと、回答された人たちのですね、年代別の割合が読み取れないので、お分かりならば教えていただきたい。以上2点お願いします。

○議長（宮本俊美委員長） はい、事務局の方でお願いします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、まずですね、一つ目の系統抽出法という方法でございますけれども、無作為抽出の方法の一つでございまして、例えば、3,000人の方がいた場合に5番目の人を1番としますと、そこから等間隔で抽出をします。10人間隔で等間隔で抽出をします。5番の人を最初としますと、5番、15番、25番、35番。こういった等間隔で対象者を抽出するという方法が系統抽出法ということになってございます。単に3,000人の母数から、くじ引きみたいな形で抽出するという方法ではないというものでございます。

それと二つ目のですね、ご質問でありました、年代別の回答数でございますけれども、

数字を申し上げる形でよろしいでしょうか。

○小島広美委員 お願いします。

○事務局（篠原課長補佐） まず20代が24.31%、30代が38.31%、40代が33.52%、50代が43.39%、60代前半の部分で49.76%、60代後半で54.46%、70歳以上が55.7%という内容になっております。

○小島広美委員 今の率は、何の率なんですか。

○事務局（篠原課長補佐） これはですね、送った方に対する回答率です。

○小島広美委員 回答率じゃなくて、年代別の。結局、42.2%の回答率が844通あったと、その内訳で20代が何%、30代が何%と分かれば教えていただきたい。

○事務局（篠原課長補佐） すみません、失礼しました。844人に対して20代が何人いたかという構成比を申し上げます。20代が7.35%、30代が13.98%、40代が14.10%、50代が17.89%、60代前半が12.09%、60代後半で13.74%、70歳以上が20.85%で、全部合計しますと100%になるかと思えます。

○小島広美委員 はい、ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ほかに質問はございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○勝井明憲副委員長 二つあるんですけど、一つはアンケートの設問項目というのは毎年変わっているのでしょうか、見直しをしているのでしょうか。

それが一つと、それからもう一つは、市民の方が那珂市は住みやすいまちだと考えていることは大変結構だと思いますけども、その理由を正しく把握しなければならないと思います。いろいろと市の施策の中に活かすためにも、住みやすいという理由をですね、やはりきちっと聞く必要があると思うんですけども、その設問が②になっているんじゃないかと思うんですけども、ここの設問の仕方も、もう少し、市民が住みやすいと感じている理由になっているのかどうかも、正しく精査してほしいと思っております。例えば、上から2番目の自然と調和のとれた住環境とありますけども、これが50.12%と、かなり高い比率になっていますけども、これは具体的にどういうイメージなんでしょうか。自然と調和のとれた住環境というのは、市民はどのようなふうに捉えていると思われませんか。それとも、これを書いた意図はどのような意図でしょうか。それをちょっとお聞きしたいと思います。とりあえず二つ。

○事務局（篠原課長補佐） はい、まず一つ目のアンケートの内容についてでございますけども、こちらの市民アンケートにつきましては、先ほども説明いたしましたとおり、毎年行っているものでございます。その中でですね、質問の内容を、同じく毎年聞いているものと、今回は政策企画課の方で総合計画に向けてですね、設問を追加させていただきましたが、同じように各課の施策の中で、質問項目を追加したいというようなものにつきまして、おおむね3問程度、各課から質問項目を出しているということになってございます。

それと二つ目の市の現状をどのように感じていますかというところの、例えば、自然と調和のとれた住環境、これをどのようなふう把握しているのかということだと思えますけども、具体的に那珂市の自然と調和のとれた住環境という部分で、具体的にですね、

これがこうだからこういうふうにイメージしてくださいというものではなくてですね、言葉の中で那珂市は自然がたくさんあると。その中で、住環境もきちんと整備されて、自然と住環境が整っているというイメージで、そういうイメージの方がどのぐらいいるのかという設問項目、選択肢になってくるかと思います。

○勝井明憲副委員長 ちょっと僕の質問と少し違う、大分違うんですけども、後で関連質問しますので、大体これはいいと思います。とにかく、最初に申し上げたように住みやすいまちだというメッセージをきちっと出しているわけですから、やはりそれがどういう理由なのか、どういうことで那珂市を住みやすいまちだと考えているのか、それをやはりきちっと聞き出す、具体的に聞き出す、抽象的にはなくて、具体的にちゃんと聞き出すのがやはりすべきことだと思います。それだけです。

○議長（宮本俊美委員長） はい、そのほかにご質問はありますでしょうか。

はい、どうぞ。

○根本傳次郎委員 今のとちょっと関連するんですが、かなり市の現状、住みやすいと感じているということで、自然と調和のとれた住環境、それから買い物などの日常生活の利便性ということで、かなりの高率で住みやすいということになっています。これについては、今、高齢化社会、それから公共交通が少なくなっている現状を鑑みてですね、要するに中心である菅谷地区、あるいは周辺の、例えば額田とか、戸崎とか、そういったところの住民がどのように感じるかというのが、これからちょっと読み取れないのですが、その地域性というのは、どのような形で把握なさってるんでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、お答えいたします。地区別での集計ということだと思いますけれども、住みやすいと思うという回答をした方の地区別の数字を読み上げたいと思います。

全部で8地区集計しているところがございますけれども、「住みやすいと思う」の神崎地区が28.36%、額田地区が31.48%、菅谷地区で34.76%、五台地区で23.81%、戸多地区で14.29%、芳野地区で35.62%、木崎地区で40.63%、瓜連地区で23.53%となっております。数字的に一番高いのは木崎地区、一番低いのは戸多地区になろうかと思えます。

よろしいでしょうか。

○根本傳次郎委員 この数値は、この50何%の中の数字になるわけですかね。それとも、アンケートで住みよいと感じた人の回答でしょうか、各地区の。

○事務局（篠原課長補佐） はい、お答えします。844人の方からこの回答をいただいているところがございますけれども、その中で、住みやすいと思うと回答した方は255人いらっしゃいます。そこから回答した数、回答者の数、各地区の回答者の数を割り返したものが、今、申し上げた数字ということになります。

○根本傳次郎委員 はい、ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ほかにごございませんでしょうか。

○平野道代副委員長 すみません。住みやすいまち、これ、目に見えてとても分かりやすいんですけども、ちょっと私が独り分らないところがあるのかなと思いますけど、先ほど、地区別と年代別と出てるんですが、無作為で2,000人出しました。その中で、同じ20代が何人、30代が何人っていう、そういう決まりみたいなのがあるのでは

うか。全員、2,000人の中から、例えば、20代が選ばれたのは100人でした、30代が200人いましたとか、300人いました、そういうばらつきがあると、その辺どういうふうになって計算を出しているのかと思って、ちょっと教えていただけたらなと思います。

- 事務局（篠原課長補佐） はい、お答えします。年代別での数ということでございますけども、抽出の段階で、先ほども申し上げましたが、系統の無作為抽出ということでございますので、年代別に何人を抽出という方法は取ってございません。ですので、各年代で回答されている方の数というのも一律ではないというのが現実なところでございますけども、年代別の回答者の数ですね、それをちょっと申し上げたいと思います。

まず、20代では62人、30代では118人、40代で119人、50代が151人、60代前半が102人、60代後半が116人、70歳以上が176人で、合計いたしますと844人ということになってございます。こちらから2,000人に対して、始め送っておりますけども、その人数が年代別に何人いたかということは、ちょっと申し訳ございません、今、把握はしておりません。

- 事務局（関根企画部長） 私の方から、今の募集について補足をさせていただきますと、いわゆる系統抽出法によりまして、統計学上ですね、抽出を行いますと、那珂市の年齢構成比に準じた形で、統計学上ですね、抽出がされるということになります。そういうことですので、基本的には年代別の構成に合った形で抽出がされるというふうに統計学上はなっておりますので、平等に年代の人数に応じて抽出がされたというふうになります。結果的にはなるというふうに、学術上はなっておりますので、そういった形で抽出方法を取らせていただいたということになろうかというふうに思っております。

それから、先ほどの地区ごとのですね、いわゆる住みよさなんですけれども、これにつきましてはですね、住みやすいと思う、どちらかと言えば住みやすいと思うというふうに答えた人の合計を見ますと、各地区にほとんど差はございません。若干75%ぐらいから菅谷地区の90%ぐらいになるところもありますけども、総じて、那珂市の場合はどこに住んでいても、先ほど、勝井副委員長からございましたけれども、何を根拠にそうなのかなということ具体的にはこの統計数字からは読み取れませんけれども、市民の方は、自分の日常生活の実体験として、そのような感じを持っていると。これは、那珂市の地理的な位置、条件、教育、福祉、そういったもの等々の中から、自分自身として、いわゆる実感として感じているというような中から、こういう回答が出てきたということで、地区別の相違は無いと。ただ、各それぞれの施策の中ではですね、年代ごと、地区ごとに応じて差が出てくるという形になろうかというふうに思っております。すみません、以上でございます。

イ 市民ワークショップの開催結果について

- 議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の（2）に入ります。市民ワークショップの開催結果につきまして、説明をお願いします。

- 事務局（篠原課長補佐） それでは、市民ワークショップの開催結果について、ご説明

したいと思います。資料については2になります。

始めにですね、参加者の募集方法というところがございますけども、日ごろ余り市政に参画する機会の少ない市民の方の意見を聴くという趣旨の下ですね、平成28年4月1日を基準日といたしまして、無作為抽出した20歳以上の市民3,000人に案内文を郵送する方法で行ってございます。

そのうち、申込があったのは39人ございまして、当日は33人の方に出席をしていただきました。

出席者の構成を見ますと、男性が約76%、年代別では、60代が約43%、地区別では、菅谷地区からの出席者が約52%ございました。

2ページ目をご覧ください。

開催日等でございますけども、6月19日(日)、午後1時30分から午後4時までの2時間30分を掛けて行ってございます。場所は、中央公民館1階の大会議室で行ってございます。

内容といたしましては、始めに事務局の方からですね、総合計画の概要、これからの総合計画の方向性及び那珂市の現状について説明をしまして、その後、コンサルタント会社の進行によりまして、参加者を六つのグループに分けまして、ワークショップを実施いたしております。

具体的には、那珂市の強み、好きなどころであったり、魅力であったりというところ、それと弱みですね、課題であったり問題意識などですね、自由に付せんに書き出していただきまして、それを模造紙に貼り付けて、同じような意見を整理した上で、グループごとに発表をしていただいております。また、ほかのグループの発表を聞いて感じたことを、別の付せんに書き出してもらいまして、それをほかのグループの模造紙に貼り付けて、感想をフィードバックするというところで、その日の作業の振り返りを行っていただいております。

当日の作業の様子は、写真のとおりでございまして、短時間にもかかわらず、参加者の方には、大変熱心に作業をしていただいたところでございます。

実際に各グループから出された意見というのはですね、次のページからの別紙のとおりでございまして、参加者が自由に書き出していただいたものを、1のコミュニティから最後のページ、4ページ目になりますけども、16の若者・結婚支援の全部で16の施策にこちらで分類してまとめた一覧表となっております。

左の施策から右に、那珂市の強みと弱み、それとグループの意見を聞いてほかのグループの参加者が感じたことをまとめてございます。

2ページ目はですね、7の交通基盤・公共交通では、強みと弱みについて、多数の意見が出されてございます。強みを見ますと、幹線道路が多く交通の便が良い、JRの駅が九つある、アクセスが良い、コミュニティバス、デマンド交通があることなどが挙げられております。一方で弱みのところでは、生活道路が整備されていない、公共交通の便が悪い、路線バスがない、東西の道路がない、終電が早い、歩道に雑草がある通勤ラッシュなどが挙げられております。

先ほどのアンケートの結果でも、交通の利便性に関しては不十分であるといった回答結果でございましたけども、ワークショップでも同様の意見が挙げられているというこ

とでございます。

また、強みの意見も多数挙げられておりますので、これらの可能性を活かしました施策が必要であるというふうに考えてございます。

次に意見が多かったのは、4ページにあります、13の観光・物産品のところでございます。ここでは弱みの意見を多数いただいております。名物がない、幅広い年齢層が参加できるイベントがない、飛び抜けた特徴がない、物産販売の集客施設が弱い、温泉施設がない、宿泊施設がない、PRが下手などの意見が出されてございます。少数の強みの部分でございますが、額田城跡や桜の名所、こちらは静峰公園だと思えますけども、それと大助まつり、菅谷まつりがあるといったご意見がありました。観光の分野では、数少ないかも知れませんが、地域資源を生かしたPRを更に進めて賑わいづくりを図る必要性があると思えます。また、物産品につきましては、近年、市の認証ブランド化というものを図ってですね、施策に取り組んでいるところでございますけども、こちらも更にアピールしていくなど課題があると思っております。

1枚戻りまして、3ページ目の12ですね、産業・雇用の施策につきましても、弱みの意見が多数挙げられております。企業が少ない、雇用がないという意見が大部分を占めておりまして、農家世帯からは後継者がいないといった声もございました。その右側、感じたことの部分では、雇用について十分ではないといった同じような意見が多数ございまして、隣接市のベッドタウンのままで良いのかといった意見もございました。市内への就職、また企業の活性化からの賑わいを望む声がございました。

同じく3ページの11の教育・文化も意見が多かった施策となっております。図書館が充実している、利用しやすいなどの強みはあるものの、那珂市の文化とは何か、文化的イベントが少ない、史跡などを見落としていたなどのご意見がございまして、こちらにも更なる充実を図るべきという結果になりました。

また、アンケートの結果で取り組むべき優先順位が高かった、1ページになりますけども、4の防犯・防災ですね、こちらにつきましては原子力施設への不安や空き家対策への懸念の声がありました。

5の自然環境や2ページ目の6の生活環境という部分は、アンケート結果の市の現状で「十分である」という回答が多かったように、ワークショップにおいても「災害が少ない」「買い物が便利」といった住環境を評価する意見や、自然が豊かであるという強みの意見が多数出されております。

市民ワークショップの意見としましては、総体的に見ると市民アンケートの結果と同様であると感じておりまして、これらの貴重なご意見を総合計画の作成に反映させてまいりたいと思っております。

以上が市民ワークショップの開催結果についての説明でございます。

続きまして、当初の次第にはございませんでしたけども、本日ですね、追加資料いたしました、まちづくりカフェの開催結果について（速報版）、こちらをですね、ご説明をしたいと思います。

まちづくりカフェは、市民ワークショップの無作為抽出と趣旨を分けまして、職域や階層等による市民の意見を把握するというところで、市民活動団体を中心とした各種団体に声を掛けて開催することとしておりましたが、参加者の募集に当たりましては、市民

活動団体を始め、子育てサークル、市の商工会、農業後継者クラブに案内文を送付することに加えまして、常磐大学及び茨城女子短期大学には、募集チラシを送付してございます。

参加者やテーマ、日程等につきましては記載のとおりということでございますけれども、テーマとしては、①の生活、②の福祉、③の文化・教育、④の産業といったテーマに沿って、それぞれ開催してございます。

日程としましては、7月31日の午前・午後をふれあいセンターよしので行いまして、8月7日の午前・午後、こちらをふれあいセンターよこぼりで、それぞれ各1回ずつ計4回ですね、開催をしてございます。

各テーマの参加者の合計では63人ということで、所属団体につきましては記載のとおりでございますけれども、複数のテーマに参加した方もいらっしゃるためにですね、人数については延べ人数ということになってございます。

参加した63人の男女比は、ほぼ半々という割合となりまして、次の2ページになりますけれども、年代別では10代から80代と幅広い年齢層の方に参加していただいております。特に10代では、母親と一緒に参加した小学生と中学生や、大学生、短大生にも参加していただいております。さらには、視覚や聴覚に障がいを持つ当事者の方も参加していただいております。

次に、まちづくりカフェの内容、進め方でございますけれども、まちづくりカフェとは、通常の会議とは違いまして、飲み物を飲みながら、お菓子を食べながら、カフェにいるようなゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、参加者それぞれが普段思っていることや感じていることなどを自由に意見を出し合ひましようといったグループワークになってございます。

おおむね1グループ5人のグループを4グループ作りまして、始めに自身のグループでの意見交換を行いまして、次に、グループの中の1人は元のグループに残り、ほかの4人がほかの3グループに行ってですね、旅をする、旅人のような形で行ってですね、意見を出し合って、その後にまた最初のグループに戻って、旅先での話やアイデアを基に意見を交換する、それを行った上で、最後に一人ずつ感想を述べていくといった方式ですね、「ワールドカフェ方式」と言いますけれども、これをコンサルタント会社の進行により実施してございます。

このまちづくりカフェでは、参加者が自由に意見を出すということで、市ではそのキーワードをヒントにしまして、今後の総合計画の作成や施策に活かそうとするものでございます。各テーマの各グループからは、様々なキーワードが出されておりますが、そのキーワードについては、ただ今整理中でありまして、今後、総合計画を作成していく上で参考にしたり、取り入れた内容があった場合には、その際に改めてご説明をしたいと考えてございます。

また、まちづくりカフェのもう一つの狙いとしましては、様々な分野で活動する方々が、ほかの参加者や団体等の方と意見を交換するという、いわば異文化コミュニケーションを図ることによりまして、新たな発見や見識の発掘、また、日ごろの活動を見直すきっかけになればということも期待していたところでございますけれども、参加された方から「とても楽しかった」という感想を頂いたり、開催後の相乗効果としましては、こ

れまで全く関わりがなかった団体同士が、今後、交流を図っていきましようという話も具体的に進んでいるということでございます。

以上、まちづくりカフェの開催結果、速報版ということでございますが、説明でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、ご質問がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

○田中廣雄委員 田中と申します。少しお時間を頂きます。このようなワークショップを開催したということは、第1次那珂市総合計画でうたわれていますが、市民との協働参画という中では、非常に大切、また、重要な部分であると認識しております。

ただ、私はここでちょっと残念だと思うのはですね、ここに書かれていないのかもしれませんが、例えばですね、施策の2で、市民活動、ボランティアのグループで、これはおそらく、ボランティアに関係している人が話されたのではないかなと推測するんですが、ボランティアの人数が少ないです。だから、実際にはですね、こういう項目によっては、逆に、あなたならどうすべきだと思いますかとか、どう考えますかとかというような部分で、促していただければ、今後の部分ですね。

ですから私は、今度のここに書いてある部分のこういう項目については、先ほどお話がありましたようにね、ここでね、この場で、実際に、一つ一つ具体的に、なぜ、どの部分が、何が足りないのか、いろいろボランティアに携わっている方がたくさんいらっしゃって、この中にもボランティアに詳しい人もたくさんいます。当然、あの福祉課の方とかいろいろあります。ですからそのような、どうしても人手が足りない、隙間を埋める、これを誰がどのようにしてやるかというような具体的な案を詰めない限りは進んでいかないと思います。

ですから、ここに実際に書いてある部分を単純に見ますと、例えばですね、悪く解釈すれば、自分では何もしないんですと、やってもらいたいことはたくさんありますと、こんなにありますというような一方的な部分しか逆に言えば捉えられない。自分では何も参加しないと、あとは、行政の目から見れば、人もいないのに、お金もないのに、助けてもらうことばかり考えていいのかと、この辺の部分がマッチングしていかないとね。

ですから、せっかくやった部分を、どのように、この課題があるわけですからね、この課題をどのようにクリアしていけばいいかということ、真剣に、この場で、具体的に一つ一つの部分を解決していかないと、本当のよいまちづくりにはいかないんじゃないかというような、私は考えを持っております。

ですから、あと、施策の15番、人口減少・少子高齢化。これは、少子高齢化も恐らく、ほとんどの方は問題だと感じているわけなんですね。だけど、要は、なぜ少子高齢化が問題なのか、そして、我々はどのように対処していくべきなのか、そのような議論がなされない限りは、大きな課題として残るだけで、いかに市民を参加させるか、要は行政側の一方通行だけで、ほとんど来ているんじゃないか、市民の活動は、ほんの一部の一握りの方、ボランティアの人数なんかを総合計画の方で読ませていただきましたけれども、あまり増えていない。どちらかと言えば減っている。そういうような状況下で、きめ細やかな手当ができるのか。

ですから、そういう部分をね、しっかり練っていかなければならないと私は考えております。ですから、いかに今後の10年の計画では、我々自体が相当な危機感を持っていかなければ、今後の若い世代の方に対して、今までの、要は年寄連中は、何をやっていたんだと、我々に借金だけ残して、介護とかの部分を残して、何もやってなかったじゃないかという汚点を残すことは間違いないと思います。

ですから、今、こういう計画を、自治法が改正されて、市民を協働参画させろというような部分が、自治体に任されたんじゃないかというふうに私は思っています。

ですから、こういう部分を、我々全体が認識していかないと、あと私自身は、ちょうど先ほど、お話したんですが、団塊世代。団塊世代は、あと8、9年経ちますと、全員が75歳以上になります。75歳以上というのは、後期高齢者。後期高齢者で健康寿命を今の部分からいきますと、みんな健康寿命を脱しちゃっている。例えば、夫婦二人であれば、二人とも医療介護にお世話にならざるをえない。そうしたらば、現状からいけば、ものすごい医療、介護費用が掛かってくることは、十分目に見えています。

○議長（宮本俊美委員長） すみません、ちょっと手短にお願いできますか。申し訳ございません。

○田中廣雄委員 分かりました。そういうわけで、もう少し踏み込んだ部分が、これから討議されることを期待しております。以上です。

○議長（宮本俊美委員長） それは要望ということでよろしいでしょうか。

○田中廣雄委員 はい、そうです。

○議長（宮本俊美委員長） はい、事務局お願いします。

○事務局（関根企画部長） いろいろな市の課題とか、そういったものを踏まえたご意見、非常にありがとうございます。

今回のですね、ワークショップでございますけれども、このまとめの中に、非常に分かりづらくて大変恐縮でございますけれども、施策って書いてございますけれども、これはワークショップの中でですね、それぞれに参加された方が自由に意見を言った内容等について同じものを、ジャンルに、便宜的に分けたものでございますので、これがイコール第2次那珂市総合計画の施策になるということではございません。まず、その1点をご理解いただきたい。

それと併せて、いわゆる強みとして市民の方が出していただいた意見については、これは那珂市にとって非常にありがたい、那珂市にとっては有意義なことでございますので、これをいかに活用して伸ばしていくのか。それと併せて、弱みについては、市民の皆さんもこの辺が足りないという認識を持っていますので、これを総合計画の中でどうやって位置付けて、具体化して、その解消を図っていくのか。そういった形でこれを使っていく形になろうかと思えます。

そういった中で、この後ですね、基本構想の後に基本計画というのがあります。この中には基本事業がありまして、先ほどボランティアの問題とか、いろんなことが出てきましたけれども、そこについて詳しくですね、現状・課題、それから施策の目標、具体的な施策の体系、施策ですね、そういったものを位置付け、そういったものを作りあげていく作業がございますので、これは、この後、基本構想の後、来年になろうかとは思いますが、その中で、こちら側としても現状を分析した結果をお示ししまして、策定委員

の皆さんからご意見をいただいて、取りまとめたいというふうに考えてございますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

以上でございます。

- 勝井明憲副委員長 総合計画もそうですけれども、行政の計画は、今、市民参加ということを強く言われておりまして、今度の総合計画の策定に当たって、市民ワークショップ、それから、まちづくりカフェという変わった取り組みをしたのは、とても高い評価ができることだと思います。こういう意味では、ほかの県とか市町村には、余り例がないと思いますので、この努力は評価したいと思います。それだけです。

ですから、できるだけ、少ないけれども、いろんな具体的な意見を聞いたわけですから、出されたわけですから、できるだけそれは総合計画の方に活かすように、市民アンケートと結果は同じだと言い切っちゃうのではなく、少しでも活かしてあげるように努力をしていただきたいと、そう思っております。

- 議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。そのほかにありましたら、お願いします。はい、どうぞ。

- 小島広美委員 先ほどですね、アンケートの年代別の比率をお聞きしたのは、市民ワークショップの年代別の比率を見ますとですね、20代から50代、いわゆる現役世代の方の出席者が合わせても30%しかないということです。要するにワークショップの結果というのは、おおむね3分の2の高齢者の方のご意見だというふうにしかり読み取れないわけですね。

ですから大変ご苦労して、いろいろやられてるんだと思うんですが、執行部の方でも。もう少し今後10年間の那珂市の総合計画を立てる上においてはですね、現役世代の参加人数をですね、増やすような最大限の努力を今からでもしていかなければいけないのではないかなと、そういうふうにしたもので、先ほども年代別の回答率を聞いたわけですが、そこら辺は執行部としてはどのようにお考えでしょうか。

- 事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。今回のですね、ワークショップにつきましては、無作為抽出ということでございまして、要は手上げ方式みたいな形だったものですから、こういう結果になってしまいましたけれども、若い世代からのご意見を聞くということの対策と言いますか、取り組みにつきましてはですね、今、検討しているものとしましては、高校生とか大学生とか、そういった学生さんからの意見を直接聞いてみたいということも一つ考えてございます。

それとですね、これからちょっと先になりますけれども、年齢層はどういう世代になるか分かりませんが、地区別座談会というものを8地区、これから9月、10月にかけて行いますので、そちらの方もですね、なるべく若い方に来ていただくという形で取り組んでいきたいなと思っております。以上でございます。

- 議長（宮本俊美委員長） よろしいでしょうか。

- 小島広美委員 結構です。

- 議長（宮本俊美委員長） そのほかありますか。はい、それではないようですので、次の方に移らせていただきます。

(4) 協議

ア 第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）について

○議長（宮本俊美委員長） 次第の4になります。第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）について、説明をお願いしたいと思います。

○事務局（篠原課長補佐） はい、それではですね、第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）について、ご説明をしたいと思います。資料3になります。

この基本構想（骨子案）でございますけども、最終的に冊子として作り上げます総合計画の前半部分になるものでございます。先ほどご説明いたしました市民アンケートや市民ワークショップの結果を踏まえながら、課長補佐級の職員で構成いたしますワーキングチームにおいてですね、作成したものでございます。

全部で21ページにわたりますので、要点のみのご説明とさせていただきたいと思っております。まず、1ページをお開きいただきたいと思います。

第1部、序論でございますけども、「第1章 計画策定にあたって」「1 計画策定の背景」としまして、(1)の自治体を取り巻く環境の変化では、上から4行目になりますけども、少子高齢化の進行による人口減少問題が国の主要課題と認識されている中、地方には「自立した地域づくり」が求められていること。(2)の総合計画をめぐる動きでございますが、1行目の地方自治法の改正に伴って、基本構想の策定義務が撤廃され、総合計画の策定に当たっては、自治体独自の創意工夫が期待されていること。また、下から3行目のところでございますけども、歳入の大幅な伸びが見込めず、歳出が増大する中、効率的かつ効果的な行政運営の指針となる総合計画の役割は、これまで以上に重要になるということをご記載してございます。

続きまして、2ページでございます。

「2 計画策定の趣旨」としまして、(1)計画策定の趣旨でございますけども、上から5行目でございます。豊かな自然環境や本市が持つ「住みよさ」という強みを活かしつつ、将来にわたって持続可能な地域を目指す計画として、第2次那珂市総合計画を策定すること。(2)の計画策定の方針ではですね、一つ目に市民と行政の協働、二つ目に時代の変化に柔軟に対応する、三つ目に成果・実行性を重視する、四つ目にまち・ひと・しごと創生総合戦略との整合性を図るという四つの方針に基づきまして、本計画を策定することとしてございます。

続きまして、3ページでございます。

「第2章 計画の構成と期間」としまして、3ページには基本構想、基本計画及び実施計画の説明と計画期間ですね、4ページの方に計画期間のイメージ図が記載されております。こちらは、前回の会議でお示ししました「策定方針」と同様の内容となっておりますので、説明は省略させていただきたいと思います。

4ページの下「計画構成イメージ」でございますけども、こちらは、関連する個別計画等と互いに整合性を図りながら、本計画に掲げる施策や事業を予算に反映させ、効率的かつ効果的な行政運営を進めていくことを示してございます。

続きまして、5ページでございます。

「第3章 計画の進行管理と行政評価」といたしまして、「1 行政評価システム」では、第1次総合計画と同様にですね、行政評価システムを活用しまして、本計画の進行管理を行っていくということでございます。二つ目の市民アンケート調査では、調査結

果を行政評価システムで用いる成果指標の基礎とするなど、本計画の進行管理に役立てていることを記載しています。

続きまして、6ページでございます。

「第4章 市の現況と課題」としまして、「1 地勢」でございますが、こちらでは市の地理的な位置や、土地利用の状況、道路や鉄道の状況、民間情報誌による住みよさランキングの順位などを記載してございます。

続きまして、7ページでございます。

「2 人口指標」としまして、国勢調査に基づく人口と年齢別人口割合の推移を記載してございます。本市におきましてもですね、人口が緩やかに減少傾向にあるということ、少子高齢化が進んでいるということが見て取れると思います。

次に8ページから14ページにかけては、「3 現況と課題」としまして、各指標から見た現況と課題を整理しています。それぞれの指標は、各分野の施策と関連してございまして、(1)の市民活動団体数は「市民との協働」と関連しております。(2)の上水道普及率と汚水処理人口普及率は「生活基盤整備」、(3)の幼稚園・保育所・認定子ども園・小学校・中学校は「少子化」や「学校教育」、(4)の高齢者と(5)の障がい者(児)は「福祉」についての関連です。(6)の就業人口につきましては「雇用」となっております。(7)の経営耕地面積、(8)の商業の状況、(9)の工業の状況及び(10)の観光入込客数というものは、「産業」の資料となっております。(11)の財政力指数は「行政運営」に、それぞれ関連していくというものでございます。

続きまして、15ページでございます。ここからが基本構想ということになります。「2 まちづくりの基本理念」から先にご説明いたします。

一つ目は、「すべての人が安心して住み続けられるまちを目指します」でございます。まちづくりの基盤は、何と言っても地域コミュニティでございます。その充実・強化に取り組むとともに、市民はもちろん、市外からの転入者も「住んでいて良かった」「これからも住み続けたい」と思えるように、移住・定住につながる取り組みを進め、さらに、市民アンケートの結果でも高い割合で「優先すべき」としておりました防犯・防災対策などを推進することによりまして、すべての人が安心して住み続けられるまちづくりを進めますとしております。

二つ目は、「共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します」です。少子高齢化や人口減少が進む中、子育て支援は重要な施策の一つでございます。そのため、地域全体で子育てを支える体制の強化に取り組むとともに、市民アンケートの結果でも高い割合で「優先すべき」としておりました、高齢者や障がい者の医療・福祉環境の充実を図ることにより、共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちづくりを進めますとしてございます。

三つ目はですね、「すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」としました。市の将来を担う子どもたちがですね、確かな学力と豊かな心を身に付けられるよう、学校教育の充実・強化に取り組むとともに、人生をより豊かなものとする生涯学習・生涯スポーツ環境の充実に取り組み、さらに、市民ワークショップでも市の「弱み」として参加者から数多くの意見がありました産業や観光の振興を図ることによりまして、すべての人が輝く、賑わいのあるまちづくりを進めますとしてございます。

次に「1 市の将来像」でございますけれども、ただ今ご説明いたしました基本理念のキーワードである「やさしさ」と「賑わい」、また、市民ワークショップでも市の強みとして参加者から数多くの意見がありました「自然」、さらには、本市の特徴であります「住みよさ」、これらを掛け合わせまして、平成39年度までに実現を目指す本市の将来像を「やさしさと 賑わいと 自然あふれる 住みよいまち 那珂」といたしました。

続きまして、16ページです。

「第2章 将来人口推計」といたしまして、本計画の計画期間である平成29年度から平成39年度までの将来人口と産業別就業人口の推計を記載してございます。

将来人口につきましては、昨年策定しました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンを基に推計をしてございまして、本計画の中間目標年度であります、平成34年では51,687人、目標年度であります、平成39年では50,437人に減少すると見込んでおります。また、産業別就業人口につきましては、過去の国勢調査の増減率を基に推計をしておりまして、本市におきましては、特に第1次産業従事者の減少が進むと想定してございます。

続きまして、17ページでございます。

「第3章 土地利用構想」としまして、「1 土地利用の方針」では、本市の市街化区域を「住居系」「複合系」「産業系」の三つの分類にしまして、市街化調整区域を「営農ゾーン」「居住ゾーン」「緑地ゾーン」の三つのゾーンに分けまして、土地利用の方針を示してございます。

18ページの「2 都市ネットワークによる連携」では、道路や公共交通といった都市ネットワークによりまして、周辺都市との連携、市街化区域内の各拠点との連携、そして、市街化区域と集落との連携を図るとしてございます。

最後に「第4章 施策の大綱」でございます。19ページから21ページでございます。

施策の大綱としまして、「1 みんなで進める住みよいまちづくり」「2 安全で快適に暮らせるまちづくり」「3 やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」「4 未来を担う心と文化を育むまちづくり」「5 活力あふれる交流と賑わいのまちづくり」「6 行財政改革の推進による自立したまちづくり」、これら六つの施策の大綱を設定してございます。この六つの施策の大綱が、来年度策定いたします基本計画の章立てになりまして、(1)(2)(3)と()書きで記載されているところが、基本計画の各章に掲げる「施策」になってまいります。

現在、市が展開しております、すべての施策を網羅できるように、基本的には、現行の第1次那珂市総合計画を踏襲した形となっております、「施策の大綱」及び「施策」につきましては、大幅な見直しは行っておりません。

主な見直し箇所としましては、住みよいまちづくりを推し進めるために、施策の大綱1の「(1) 地域コミュニティの充実を図る」を「(3) 市民との協働によるまちづくりを推進する」から独立させてございます。また、移住・定住やシティプロモーションに関する事業などを位置付けるために、施策の大綱1に「(2) 誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを推進する」を追加してございます。また、区域指定制度が導入されることなどを踏まえまして、第1次総合計画では「調和のとれた土地利用を図る」と「魅力

ある市街地を形成する」の二つに分かれておりました施策を一つにいたしまして、施策の大綱2の「(7) 自然環境を活かした機能的な都市づくりを推進する」にしていただきます。

以上がですね、第2次那珂市総合計画基本構想(骨子案)の説明とさせていただきます。

皆様からご意見を頂きながら、より良い基本構想にしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

- 議長(宮本俊美委員長) はい、ありがとうございます。ただ今、基本構想(骨子案)について説明がありました。内容はもちろんでございますけれども、文章の表現の方法等、不明な点がありましたら、ご質問をお願いしたいと思います。
- 小島広美委員 今、説明を聞いてですね、私は第1次那珂市総合計画をざっと見ていたらですね、第2次那珂市総合計画もほとんど施策の大綱の項目は変わり映えしない。なぜ変わり映えしないかというのがちょっと理解できないんですが、この資料の中にもあるように、それぞれの行政評価システムを採用した理由として、それぞれ解消してやってきたにもかかわらず、10年かけてやってきた施策に対して、何ら達成できなかったのか、それとも、まだまだ不十分で継続していくのか、どういう理由かは分かりませんが、大綱の項目がほとんど変わらない。ただ、なんか継続して、失礼な言い方かもしれませんが、総合計画を作ればいいんだ、というような感じにしか見えないのですが、大変失礼な言い方かもしれませんが、そこら辺をどうお考えかお聞きしたいです。
- 議長(宮本俊美委員長) はい、お願いします。
- 事務局(篠原課長補佐) 今回ですね、第2次那珂市総合計画をつくるに当たりまして、各基本計画の基礎となります、施策の部分につきましては見直しで、第1章から第6章まであったわけでございますけれども、この中身につきましては、ある意味、普遍的な部分もある程度はあるのかなと考えてございます。当然、市の現状の施策の中でですね、十分なもの、不十分なもの、あろうかと思っておりますけれども、それらをすべて、この総合計画の中でですね、取り入れていこうとした場合に、優先順位の違いはあるとは思いますが、その一つ一つの項目というものはですね、余り変わらないものという考え方もあるのかなと感じております。
先ほど、基本理念ですね、将来像のところにもございましたけれども、その部分ではですね、市のこれから進むべき将来像を掲げているところでございまして、この施策の大綱ごとにですね、来年度以降策定していきます、基本計画等の中でですね、より濃淡を付けてですね、施策に取り組んでいくということで、結果的に第1次と余り変わり映えしないという内容になったと思っております。
以上です。
- 小島広美委員 総合計画策定の事案には、そぐわないかもしれませんが、すばらしい言葉が羅列されてますが、できればですね、第2次総合計画においてはですね、那珂市においてこれだけとか、この項目だけは県内1位だと、この施策が自慢できる、そういった特色のある総合計画を作る。そういったものを策定していくべきではないかなと個人的には思っているんですが、できればそういう方向を目指していただきたいと思っております。感想です。

○議長（宮本俊美委員長） はい、では部長。

○事務局（関根企画部長） はい、ありがとうございます。那珂市にしかない、那珂市が一番であるというのは、那珂市をアピールする上では非常に大切なことではないかなというふうには思います。

ただ、市民ワークショップとかのご意見を聞いてもですね、市民の皆様の意見というものは非常に様々なものでございますし、そういった意見を取り入れながらですね、いかに那珂市のこの地域資源、那珂市の置かれた状況を踏まえた中で、どういったものを中心的にやっていくのか。当然、那珂市は現状を考えますと、やはり、生活をする場として非常に市民の方は最も優れているのではないかということでございますので、そういった中で、仕事のこととか、いろんな問題があるかもしれませんが、そういったことを活かした中でですね、那珂市の生きる道っていうのが出てくるのかというふうに思っています。

そういったことを踏まえてですね、基本計画の基本事業の施策の中では、これはある意味とんがった事業とか、そういった特徴のある事業を目出ししていくという形になるのかなと思っています。当然、人口減少が今後進むということで、これについては歯止めをかけていかなければならないというか、いわゆるそれぞれの年代間の人口構成というのを、やはり極端な偏りのないような形に、そういったことを考えますと、子育てとか、子どもを産んで育てて、教育ができるような環境というのも、非常に今後10年間の中では重要な施策になってくるのではないかなとなってきますし、先ほど、ボランティアのお話がありましたように、地域の中で支えるということ、市民との協働のまちづくりということを那珂市の特徴的な施策として位置付けてございますので、そういったものを施策の中心的なものとして、やはり、事業を組み立てていくというようなことをしながらですね、特色を出した形での基本計画、第2次那珂市総合計画にしていきたいというふうには考えてございますので、もうちょっと具体的な書き込みがされた中でですね、策定委員の皆様の方に更にご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○小島広美委員 ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、じゃあ奥の方。

○富澤亜希子委員 すみません、先ほど表現の方もいいということだったので、やさしさという言葉が結構出てくるんですけども、そのやさしさというのが、将来像のやさしさとかだったら、なんとなくですけども、第3番目の、20ページの「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」というのが何をもちてやさしさがあふれているのかというのが、ちょっと分かりづらいというか。安心して暮らせるということが、やさしさという評価になってしまうのか、ということもあるし、ちょっと、たぶん、ここの項目は、高齢者だとか、弱者っていう、大袈裟に言ってしまうと、その人たちも、みんなが安心してということだと思うんですけども。そのやさしさという言葉で、オブラートに包まれてしまっているというか、もうちょっとはっきりした言葉がないのかなと思ったんですけども。

自分の意見としては、ほかの障がい者や高齢者、これから認知症の方が増えてくる社会になっていて、やはり隣の人にやたら無関心だとか、そういうことを考えると、相手

の立場に立ったことを考えられるというようなことがやさしさというか、こういう安心につながっていくのかなど。ちょっと分かりづらいかもしれないんですけども。これを見てて思ったんですけども。何かもうちょっと分かりやすい表現がないかなと思ひまして。

○議長（宮本俊美委員長） お願いします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。今のご質問、20ページの施策の大綱の3番、「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」というところのやさしさという言葉の使い方だと思いますけども、基本理念ですね、15ページのところに戻っていただきまして、今回、三つの基本理念を掲げてございます。その中でも、やさしいまちを目指しますということを言っております。この中で言っている優しさの意味合いですけども、先ほど、おっしゃっていただいたように、例えば福祉の分野でのやさしさであったり、安心・安全であったりというところのやさしさというイメージみたいなものになりますけども、そういったことをですね、福祉とか、安心・安全という内容を言葉で全体的に表した場合に、何が当てはまるのかなというところで、やさしさという言葉でですね、今回、使ひまして、基本理念のところもそうですし、市の将来像にも最初にやさしさと入っておりますけども、この中にはそういった意味合いも含めていたということでございます。

回答になってないかもしれませんが。

○議長（宮本俊美委員長） あの、今後ですね、そのやさしさという表現をどういった、いい表現があればですね、ご提言いただければありがたいと思ひますが。今後ですね、もし、いい表現があれば事務局の方でも考えていきたいと思ひます。

そういうことでよろしくお願いします。

はい、そのほか。

○田中廣雄委員 大綱を読ませていただいたんですが、先ほども、ちょっとお話に出ましたけど、第1次総合計画の課題がそのまま繰り越されている部分が多々ございます。それらを踏まえて当然やっていかななくちゃならないんですが、これの、会議の、委員会の進め方なんですが、前にもらったスケジュールを見ますと、7回で終了ということですよ。そこまでには仕上げるということでもいいですよ。

そうしますと、この大綱は、私は本当に立派な大綱だと思ひています。これができれば本当に理想的かと思ひます。それで、先ほど言ひましたように、例えば、市民との協働のまちづくりを推進しますと出てます。そうすると誰がですね、どのような役割を担って、具体的にどのように展開していくというのが、この項目の一つ一つにね、全部に当てはまるんですね。ですから、これをやらない限りは、課題は先送りになってしまうんじゃないかということが懸念される状況だと思ひます。

ですから、今後の進め方については、ちょっと確認なんですけど、例えば、みんなで進める住みよいまちづくりということで、項目1、2、3、4、地域コミュニティの充実を図る。これらの項目の細目について、そういう詳しい、具体的な案が、これから進める中で、どちらかと言えば執行部の方から、提案がなされるんでしょうか。その辺ちょっとお聞きしたいなと思ひます。

○事務局（関根企画部長） 私の方から。ありがとうございます。これは、基本構想で

ございますので、いわゆる施策の大綱として章立てをするものでございます。これに沿ってですね、例えば、施策の1番で、みんなで進める住みよいまちづくりですと、(1)地域コミュニティの充実になりますと、ここの中にいわゆる現状と課題とか、それから施策の方針ですとか、それから目標指標ですとか、それから具体的な事務事業ですとか、そういったものがここの中に含まれてくる、ここの中にぶら下がるって言うんですけども、この中に入ってくるわけですね。それを基本計画の中でお示しをするということになります。

ですから、今年度は、この基本構想の章立てについてこういう方法、いわゆる基本理念については、総合計画のコンセプトですよね。大きな方針みたいなもので、そこに対する施策の柱立てをこういうふうにしまして、この中に、今度は基本計画として、それぞれの基本事業とか、事務事業とか、目標指標とか、そういったものを入れていくと。

当然、第1次におきましても、その基本目標に対してどれだけ達成したのかというものを、これは当然こちらの方でも把握してございますので、それに基づいて、達成していないのであれば、改めて目標指標を立てまして、更にそれに向かって施策を展開していくというような形になります。具体的には、例えば市民との協働ですと、まちづくり活動に参加している市民の割合なんかを目標指標にしています。これは率として、これは基本計画に出てきますので。そうすると、これは何%達成したかということによって、この施策の達成状況を把握するという形で具体的にこの事業を検証していくという形になるというふうに思っています。

以上でございます。

○田中廣雄委員 はい、承知しました。ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、金子さん。

○金子巖委員 はい、すみません。まちづくり委員の金子です。

ただ今、聞いて、ちょっと一つだけ違った見方から提案したいと思います。第1次総合計画の中で、協働のまちづくりということで、区長制度から自治会制度に移行して、既に6年目になるかと思えます。私は前から警鐘しているように、協働のまちづくりで、自治会と行政が一体となって、対等の立場で、まちづくりをしようという提案で推進をされてきたように私は感じております。

既に、今度、第2次の総合計画の中で、この問題をどのように総括して、基本構想の中に入れて、基本計画の中に具体的に取り入れていくのかということを考えていかないとおかしくなるんじゃないかなという気がいたしました。

なぜならば、今はすべて、行政は行政だけで進めて行って、実際にそれぞれの69ある自治会は、あるいはその上にある地区のまちづくり委員会なり、まちづくり協議会の組織の中でも、この問題を何回かやってきても、実際にこれは並行して行政も進んでいない。その辺をどう総括して、この第2次基本計画の中に取り入れて、実際に協働のまちづくりを改めてつくっていく場合にはどうすればいいのかということ、やはり基本構想の中で、行政の評価の中で取り入れたらどうなのかなという疑問を持ちましたので、この一つだけ、今日、質問しておきます。

あとで基本構想なり具体的になりました時点で、それぞれ項目別には質問いたしたいと思っておりますので、これについての考え方について伺いをしたいと思います。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。今回のですね、施策の大綱、19ページにございます、みんなで進める住みよいまちづくりという部分につきましては、先ほどのご説明の中でも若干触れましたけども、これまでですね、市民との協働によるまちづくりを推進するという施策でございました。

それをですね、今回二つに分けるような形を取りまして、地域コミュニティの充実を図る、それと、市民との協働によるまちづくりを推進する、(1)と(3)ですね。こちらに振り分けたというイメージを持ってもらえると思います。

その中でですね、地域コミュニティの充実という部分につきましては、今、おっしゃっていただきました市民自治組織ですね、地区まちづくり委員会であったりとか、自治会、そういった組織的な位置付けの支援ですね、そういったものを考えてございます。

市民との協働によるまちづくりを推進するといった部分につきましては、市民活動団体などのですね、支援する体制、市民活動支援センターであったりですとか、今、実施しております提案事業であったりですとか、人材育成などをですね、そういった部分を支援するというので、先ほどもありましたように、平成23年からですね、自治会制度になりまして、そこからですね、更に協働のまちづくりを進めるということですね、更に施策を細かくしたというところが、今回の修正した大きなポイントの一つでもあるというところでございます。

この二つ目に分けた中からですね、おっしゃっていただいたような、自治会のあり方であったりとか、行政と自治会の協働の体制という部分を基本構想に基づきまして、来年度からの基本計画の中にですね、計画の中に盛り込んで行って、各事務事業ですね、市で行います事務事業の中で、ある程度、これらの内容を推進できるような体制を整備できればよろしいかなと考えているところです。

以上でございます。

○議長（宮本俊美委員長） よろしいでしょうか。

○金子巖委員 基本的な考え方は了解いたしました。基本的にはですね、今申し上げた内容的なものになってきますと、また問題あるかと思えますけども、いわゆる八つの地域のそれぞれまちづくり委員会に格差が出ないように、これから対等にどうまちづくりしていくかということを実体化する、して欲しいということが願いだっただんで、そういう意見を申し上げました。

分かりました、よろしく申し上げます。

○大森常市委員 この作り込みについて、何点か気付いた点があるものですから。

まず6ページ、市の現況と課題の中で、地勢なんですけど、この中で、最終後段に、住みよさランキング2016では県内で第3位、水戸市やひたちなか市をおさえて、守谷、つくばに次いで、第3位だと思うんですが、全国で40位、これ非常に素晴らしいことだと思うんですが、この表現からいきますと、自然豊かで、常磐自動車道を利用して、首都圏へのアクセスがいいから、第3位なんだというような受け止め方もされないのかなということで、この素晴らしさをどこか特出しで、もっとアピールしてはというふうに感じました。

それから7ページなんですけど、人口推計で、昨年、国勢調査が行われたわけなんですけど、1年も過ぎれば、中間で人口は分かると思うんですが、出した方がよろしいのかな

と思ったんですが。平成22年度までで将来推計人口が29年度からですから、7年間飛んでしまうというと、ちょっとどうなのかなと感じました。

それから、9ページなんですが、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校、この中では、児童・生徒数や年少人口の推移が指標として掲載されているんですが、その中で少子化、さらには地域全体で子育て世帯を支援していく必要がありますという課題は分かるんですが、その次に、いきなり、不安や悩みを解消するための相談体制の充実を図る必要がありますという課題が挙げられているのですが、これがちょっと、指標がない中でどうなのかな。相談件数や悩みを抱える子どもの数でも資料として挙がっているならば、相談体制ということも分かるんですが、子どもが少なくなってますよ、だから相談体制が必要なんだよってというのは、これではなかなか読み取れないのかなというふうに感じました。

それから、15ページの市の将来像とまちづくりの基本理念なんですが、将来像の実現に向けて、推進していくっていうのがまちづくりの基本理念だと思うんですが、これを、この文言を間に入れてはどうなのかなというふうに感じました。第1次那珂市計画ではそういう表現をしていたかと思うんですが、それも一つのやさしさなのかなというふうに考えたところです。以上です。

○事務局（関根企画部長） 私の方からお答えします。ありがとうございます。

まず、6ページの住みよさランキングでございますけども、これについては、安心度、利便度、それから快適度、富裕度、住居水準充実度という五つの指標、五つ分野の15の指標によって、東洋経済新報社の方ではランク付けしているということがありますので、そういったことを踏まえて、もうちょっと書き込みについてですね、那珂市の特徴でもございますので、その辺のところについて検討させていただきたいというふうに思います。

それから、7ページの27年の国勢調査の数字でございますけども、現在、速報値がもう既に出てございますので、10月ごろ、もう少し経ちますと、確定値が出てくるのではないかと思いますので、ここについては確定値で。そうしますと下の年齢別人口割合の推移のところも当然、国勢調査の数字が出てきますので、そういった形で27年の国勢調査の数字を入れたいというふうに思います。

それから9ページでございますけども、ご指摘のとおり、説明文の最後から2行目以降のくだりについて、課題として、相談体制の充実ということも挙げておるんですが、これについて、指標的なものが示されていないということもございますので、ここについての課題に対して、どういう指標によってそのところが明確になるのかという関連性もございますので、その辺についてちょっと検討させていただいて、どういう数字が挙げられるのかも含めまして、精査させていただきたいというふうに思っております。

それから、市の将来像のところにつきましては、第1次那珂市総合計画の中でも記載がございますので、そのような形で、よく分かりやすいような形で書き込みをするなど、そういった形の訂正をさせていただくということにさせていただきたいと思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。

○勝井明憲副委員長 先ほどは、ちょっと褒めたんですけども、今度は少しけなしたいと思っておりますけども、がっかりしたことがあります。全体に目は通したんですけども、期待

外れというところです。

いくつか質問がありますけども、まず最初に1ページ目ですね。計画策定の背景というところで、(1)自治体を取り巻く環境の変化。ここをもう少ししっかり書いて欲しいんですよ。二つほど抜けていると思うんです。一つは、先ほど金子委員が言ったように、行政のなんていうのかな、市民参加が進んできているという、そういう総括、そういう環境の変化をちゃんと書いて欲しい。いろんな形で、まちづくり委員会もそうですし、そのほか市民活動団体も行政、例えば、なか環境市民会議なんかも来てますし、そういう意味で市民参加というところをやっぱり、状況変化としてきちんと書いていただきたい。

もう一つは、もう一つ非常にかかりましたんですけども、僕は環境の専門家なんで、ここに環境が入っていないのはどうしてなのかよく分からない。去年の暮れにパリでCOP21がありました。それで、2100年に向けて2℃目標を達成しようと、それで具体的に今、国も、それから県も、それに沿っていろいろ取り組んでいる。そういう意味で、この10年間はとても、2℃目標を達成するというのは、とても大事な10年間なんです。それに対する、その変化が書いていないのはなぜなのかよく分からない。ぜひ書くべきである。その二つがちょっと抜けている。そういう環境の変化ということで、気候変動ですね、気候変動と言いますか、日本流に言うと地球温暖化になりますけども、そういう気候変動に対する、要するに考察が抜けている。それを指摘したい。

それから(2)ですけども、3行目に自治体独自の創意工夫が期待されていると書いてあります。この計画の中のどこに創意工夫がされているのか、ちょっとよく分からない。

それから、総合計画のあり方について、より本質的な見直しが求められているというのが、それがどこなのか。

先ほども、アンケートの結果にもあったけども、那珂市の住みよさに対する評価が高まっているわけですね。世間的な評価と、それから市民のアンケートもありますけども、そういう住みやすさに対する評価が高まっているんだから、それを今後10年間で追求していくと。少し税金は高いかもしれないけれども、住みやすさが一番であると。要するにその分そういうサービスが受けられるとか、そういうところを目指していくんだとか。そういうふうなミッションが、そういう意味でその少子高齢化みたいな、いわゆる人口減少に対応していくんだというところが抜けていると思うし、その辺が分かりにくい。もう少し、ここの1ページ目のところをもう少ししっかり書いてもらいたい。まずそういうことを言っておきます。ご意見を頂きたい。

○事務局(関根企画部長) 私の方から。ありがとうございます。

副委員長のご指摘のとおり、自治体を取り巻く環境の変化というのは、やはり今後の10年間の中で特徴的に、重点的に取り組むものをここの中から生み出して、書き込みの中から結び付けていく必要があるのかなというふうに考えてございます。そういった中で金子委員の方からもご指摘がございました市民参加、市民との協働のまちづくりを重点的に那珂市は進めようとして、23年から取り組んでいるということも考えますと、この中でさらにそういった動きもありますし、そういったことを更に進める必要がありますので。それから環境については、申し訳ございません、抜けているようでござ

いますので、その辺も含めて、ここの（１）の部分については、少し厚みを持たせる形にしたいと思います。

それから、総合計画をめぐる動きなんですけれども、これは総合計画策定手法についてここに述べてあるような感じなんですけれども、正直に申しますと、そんなに重要ではないのかなと。要するに、総合計画自体は議会の議決を経るとか、そういったいろんな手続きに関係なく、市の独自性を出した上で、策定しなくてはならない話でございますので、おっしゃるとおり、生活の場としての住みよさというものを那珂市が一番の特徴的に考えていることは間違いない事実でございますので、その辺も含めて、中身の関連性って言うんですかね、文章をただ羅列するのではなくて、その辺の意図を踏まえた中で、少し表現の方法、書きぶりを考えていきたいなというふうに思っております。

ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ほかにはどうでしょうか。

○勝井明憲副委員長 皆さんに申し上げたいけども、副委員長として申し上げたいけども、この計画是那珂市の最上位計画です。一番上になる計画、そういう計画の策定の中に皆さん加わっているわけですので、できるだけご意見を述べていただきたいなと思います。

ご意見がないようですので、私が質問しますけども、15ページのキャッチフレーズと言いますか、これで皆さんいいですか。市の将来像というのは、「やさしさと賑わいと自然あふれる 住みよいまち 那珂」これでいいですか。皆さん何かご意見はないでしょうか。僕は、やさしさと賑わいってというのは、こういう文学的な表現はどうかなと思うし、やさしさと賑わいってというのは、これから難しいんじゃないかなという気がするんです。ちょっと少し変えてもらいたいなと思うし、自然あふれるって、僕、いつも、時々言うんですけども、那珂市って自然豊かですか。皆さん、自然ってどういうものだと思いますか。僕は自然って、ちょっと勘違いされてると思うんですけど。とにかくそれはそれでいいけれども。

例えば、次の19ページだったかな、19ページの一番上にある「みんなで進める住みよいまちづくり那珂」とか。まちづくりの基本理念の中には①、②、③とあるんだけど、すべての人が安心して、すべての人にやさしい、すべての人が輝く、すべての人ってというのが全部出てくる。みんなで進めるって言うんですかね、すべての市民で進めるって言いますか、「みんなで進める住みよいまち那珂」とかですね、そういう方が僕はいいような気がしますけども、皆さんご意見があったらお願いします。

それから、住みよいってことについて少し述べたいんですけども、やっぱり住みよいってというのは、僕は五つあると思うんです。一つは防災ですね。要するに、那珂市は、僕は住んでて、防災がいいというのは、台風もなかなか来ないし、先週来ましたが。台風来ないし、今週ですか、今週来たのかな。台風も来ないし。それから地震も水戸や日立市よりも。そういう意味で、なんて言うのかな、そういう意味で防災上、比較的安心できるまちだということで、防災というところ。それから、先ほどから言っている環境と申しますか、なんて言うんですか、よい環境の中で生活ができるまちだという、そういう環境ですね。それから福祉です。それから子育てができる。それから教育ですね。よい教育が受けられる。僕は、そういう五つだと思うんですけども。そういう、例えば五つのキーワードに従って何か、基本理念だとか、そういうものを整理するとか、そう

いう言葉が必要じゃないかと思っているんですけども。ここはとにかく、なんかもう少し、文学的な表現が見受けられるんですけども。とにかく、これから10年間とても大事な部分ですから、総合計画を作るに当たって、是非いろいろと知恵を絞って、皆さんで知恵を絞って、本当に住みよいまちがいつまでも続いて、それが上ってくるような、そういう計画であってほしいと僕は思いますけども、事務局の方、どうでしょうか。

○事務局（関根企画部長） それでは、私の方からお答え申し上げたいと思います。

確かに、この将来像を見ますと、非常に漠然としているような感じで、耳障りのいいような言葉、それから勝井副委員長おっしゃったように、自然というのを本当に自然なのかなというお話については、確かに、住宅がある都市部で、都市部というか、ほどよい田舎のような感じでしょうね、そういう意味での住みやすい環境であること、自然あふれるというような形で表してございますけれども。もう少しこの部分について、策定委員会のご意見も踏まえて、もう一度ここを修正ができないかどうか、もう少しどうなのかというご意見を頂きましたんで、持ち帰って少し考えさせていただくということで、この場でこういう形でいいでしょうと、事務局の方でお話はできませんので、ご意見として伺いしておいてですね、どういう形がいいのか、そのところはもう一度検討をさせていただきたいというふうに思います。以上です。

○議長（宮本俊美委員長） 今、将来像、やさしさと賑わいということでも出ましたが、委員の皆様におかれましては、今後、この部分をもうちょっといい表現があるかどうか、持ち帰ってですね、もうちょっと検討していただければ、ご意見をいただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○篠原恵子委員 もう一度、検討するということですが、私の方からも、副委員長さんからも、この件に関してはお話がありましたけども、結局、言いたいのは住みよいまちをつくろうということに、この形容詞が三つ、前の方に出てると。住みよいまち那珂市では、あっさりし過ぎているから、ちょっとそれが多過ぎて、確かに文学的表現は、ちょっとそれが濃すぎる。やさしさって誰が誰にやさしくするの、賑わいって何の賑わいを言ってる。多分、農業、商業、工業、それからボランティアで、いろんなね、賑わいで。でも、漠然としているんですよ。だからもうちょっと言葉少なにして、これがいいっていうのは、今日は言えないんですが、みんなでもうちょっとこれは大事な言葉だから、市でもあれでしょうが、私たちもちょっと考えてみましょうか。という意見です。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。先ほども言いましたように、この部分につきましては、もうちょっと、事務局でも検討したいと思いますんで、皆さんもご意見がありましたら事務局の方にお寄せいただければ、ありがたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

事務局の方で、そういうことでよろしいでしょうか。

○事務局（関根企画部長） 次回の策定委員会、第3回の時には、ある程度、骨子ではなくて、案としてまとめるという作業になりますんで、それまでの間にですね、策定委員の皆様にもお願ひするというのであれば、こちらからご通知申し上げまして、期限を切って大変恐縮ではございますけども、案がございましたらば、いろいろとお出しただいて、それを踏まえて事務局を中心にもう一度、そこを練り直していくというような形でいかがでしょうか。

そういう進め方をさせていただいてよろしいでしょうか。

(了承する旨の声あり)

○議長（宮本俊美委員長） 今、事務局から話がありましたように、もう一度皆さんからご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほか、ありますでしょうか。

(意見・質問なし)

イ その他

○議長（宮本俊美委員長） それでは、ご意見がないようですので、(2) その他の方に入りたいと思ひますけども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(意見・質問なし)

○議長（宮本俊美委員長） ないですか。

以上で、協議事項は終わりになりますけども、本日、皆様から頂きました貴重なご意見を本当にありがとうございました。今後ですね、事務局におきましては、皆様から頂きましたご意見を、この骨子案に十分に反映させてですね、より良い基本構想にしていきたいと思ひますので、よろしくお願ひを申し上げます。

(次回はこの声あり)

○議長（宮本俊美委員長） 次回については、事務局からよろしいですか。

○事務局（浅野課長補佐） 次回でございますけども、第3回の策定委員会でございますが、11月を予定しております。事務局の方から、追ってですね、詳しい日程が決まりましたら、後ほど、改めてご連絡を差し上げますので、よろしくお願ひいたします。

○田中廣雄委員 今の日程の件で11月ということですね、これ前もって分かっているわけなんですけども、上旬、中旬、下旬とか、そういう部分が分かれば、言っていれば、いろいろな都合とね、助かるんですけども。

無理であれば、結構です。

○事務局（浅野課長補佐） ありがとうございます。

○榊原直美委員 すみません。学校側が、PTAなんですけれど、11月は行事が結構入っているんですけども、その辺も考えていただける感じですか。

○議長（宮本俊美委員長） どうですか、事務局。

○事務局（篠原課長補佐） 次回の策定委員会の日程、11月ということで決まっておりますが、まだ具体的に上旬、中旬、下旬というのは決まっておりません。なので、もしよろしければですね、11月の日程が分かった際にはですね、こちらの方に都合の良い日、または都合の悪い日などを教えていただければありがたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○榊原直美委員 時間を何時まで決めていただけるといいかなと思ったんですね。

○事務局（篠原課長補佐） 具体的に何時までがいいとかがあっていうのはありますか。

○榊原直美委員 決めていただいた方が対応できるかなと思って。

○事務局（篠原課長補佐） 本日の場合、1時半からということで始まりましたが、おおむね掛かっても2時間、具体的に時間で言いますと、3時半ということになりますけども、おおむね2時間ということで、考えております。午前の時間、午後の時間ということで

言えば、午後の時間、今日みたいな時間設定で進めたいと思いますので、よろしくお願
いしたいと思います。

○榑原直美委員 分かりました。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。それでは進行を事務局の方
にお返しします。

（5）閉会

○事務局（浅野課長補佐） はい、皆様よりたくさんのご意見、慎重なご審議をいただき
ましてありがとうございました。長時間にわたり、時間は経過しましたがけれども、以上
をもちまして、第2回那珂市総合計画策定委員会の方を終了させていただきます。大変
お疲れ様でした。ありがとうございました。